

第2回香川大学教育学部特別支援教育研究大会を8月7日(木)に開催しました。

香川大学教育学部では、第2回香川大学教育学部特別支援教育研究大会を香川県教育委員会と共催で、平成20年8月7日(木)に香川大学講堂および教育学部教室を会場に開催しました。本大会は平成19年2月の研究大会に引き続くものです。

本大会では、「連携・一貫性のある特別支援教育をめざして」のテーマの元に、教育学部と附属学校園が独自の事業として取り組んできた特別支援教室「すばる」での実践研究のこれまでの成果を公開するとともに、香川県下の特別支援教育の取り組みの状況を交流して協議を深めました。

大会実行委員長の新見学部長の挨拶の後、香川県教育委員会大金教育次長の挨拶、一井学長の祝辞をいただき、特別支援教室「すばる」室長の繪内教育学部教授が「特別支援教育を香川に」の講演を行いました。その後、8つの分科会に分かれて協議をしました。特別支援教室「すばる」の研究グループにより国語、算数、社会性育成の各発表を行い、加えて、幼稚園・保育園の実践、小学校の取り組み、高等学校の取り組み、附属特別支援学校のセンター的役割、地域でのネットワークづくりが提案されました。

県内を中心に教育関係者ならびに一般の方々580名の参加をいただき、特別支援教育の推進と定着に関する意義のある大会となりました。



大会風景(一井学長)



大会風景(大金教育次長)



大会風景(新見学部長)



特別支援教室「すばる」室長
繪内教授の講演



分科会の様子